

「地域密着型金融」の取組み状況 (平成24年4月～平成25年3月)

- 金融庁の「中小・地域金融機関向けの総合的な監督指針」において、地域金融機関に求められる恒久的使命として、①取引先企業に対するコンサルティング機能の発揮、②地域の面的再生への積極的な参画、③地域や利用者に対する積極的な情報発信(以下「主要項目」という。)についての取組みが求められており、当金庫では、平成22年度を初年度とする中期3か年計画(平成22～24年度)や単年度事業計画を策定し、地域内企業の育成・支援や地域内全体の活性化のための継続的な取組みを行ってまいりました。
- 「地域密着型金融」の取組みは、金融業務を通じた地域貢献はもとより、当金庫のビジネスモデルの高度化と収益力の向上につながるとの認識に立ち、「自主性・創造性を発揮した取組み」を促進し、地域内経済の活性化に注力しながら、実効性の確保に向けて着実に取り組んでいます。
当金庫は、金融業務はもとより、金融以外のあらゆるご相談にもお答えするために、「よろず相談信用金庫」を標榜しています。「取引先企業に対するコンサルティング機能の発揮」、「地域の活性化に向けた面的再生への積極的な参画」、「地域や利用者に対する積極的な情報発信」等の取組みを継続的に推進し、健全経営の維持・向上に努め、地域の皆様にとってなくてはならない信用金庫を目指取り組んでいます。
- 企業の将来性や保有する技術力および定性的な非財務情報を的確に評価できる能力をもつ職員を養成するため、公的機関との連携強化や各種研修会の開催、外部研修会への参加等を通じて、目利き能力の向上に取り組んでいます。
- 今般、平成24年度の取組み状況を取りまとめましたので、以下の通り公表いたします。ご覧いただければ、当金庫の姿勢や取組みの状況がご理解いただけるものと思います。

平成25年6月

主要項目の進捗状況

I. 顧客企業に対するコンサルティング機能の発揮

- ① 取引先の実態把握や本業支援のための定性情報の収集・蓄積と、その活用に向けて当金庫独自の「企業概要カード」、「情報収集履歴」を作成しています。また、この取組みをより高度化するため、職員の情報収集力養成や目利き力向上に取り組んでいます。取引先との日常的・継続的な取引関係を通じて蓄積された情報や外部の専門家・外部機関等とのネットワークを活用して、顧客企業のライフステージに応じた事業拡大等への提案や経営改善・支援に取り組んでいます。
- ② 創業・新事業を開始される創業者等に対しては、政府系金融機関との協調融資や信用保証協会の経営革新融資制度等を活用し、新分野への進出について積極的に支援しています。
- ③ 平成21年度から継続的に取り組んでいる「知的資産経営セミナー」を開催し、取引先自身が自社の強みや課題を「見える化」するための「知的資産経営報告書」の作成により、改めて「自社を見つめ直す機会を得た」ことや、「社員の経営への参画意識が高揚した」、「販路開拓や事業承継等への取組みにも効果があった」と評価していただいています。これらの経営課題を解決するために、一般社団法人 兵庫県信用金庫協会、公益財団法人 神戸市産業振興財団、神戸商工会議所が主催する「川上・川下ビジネスネットワーク事業」等に参画し、販路開拓やビジネスマッチング等に結びつける取組みを行っています。
- ④ 中小企業の有する課題の抽出・整理等を本来業務とする「経営革新等支援機関」としての認定(金融庁・経済産業省)を受け、取引先の経営支援への取組みを強化しています。

II. 地域の面的再生への積極的な参画

- ① 地域の活性化に向けた「ビジョン策定」や「公民連携」による地域と一体となった「面的再生」への取組みにより、地域内の「資金の還流」が期待できると評価しており、引き続き「公民連携」のコーディネーターとしての役割を果たしていきます。
- ② コミュニティ・ビジネスや NPO 法人が行うボランティア活動に職員を派遣してのボランティアマインドの醸成や高齢者宅へのケア訪問、認知症サポーターの養成講座、普通救命講習の開催、がん検診受診率の向上活動、献血サポーターへの登録、優遇金利商品等の多様なサービスの提供や資金ニーズに合わせた融資等を通じて、地域社会への貢献・還元に努めています。

III. 地域や利用者に対する積極的な情報発信

- ① コンサルティング機能の発揮や地域の面的再生への取組み状況・成果等について、ホームページやディスクロージャー誌への分かりやすい公表に努めています。

項目毎の具体的取組内容と進捗状況

【 1. 顧客企業に対するコンサルティング機能の発揮】

項目	取組内容	実績・成果
(1) 創業・新事業支援		
・創業・新事業支援機能の強化	・創業・新事業融資目標 年間 30件 (うち創業支援特別融資目標 年間 10件) ・政府系金融機関等との協調融資目標 年間 15件	・創業・新事業融資 実績 33件 692百万円 (うち創業支援特別融資 実績 2件 7百万円) ・政府系金融機関等との協調融資 実績 4件 88百万円 ・創業・新事業においては、業種的にはサービス業(医療・理美容・飲食)の独立開業が多くなっており、医院開業等医療関係の増加が顕著となっています。理美容・飲食業は比較的事業規模も小規模なことから、開業資金調達が開業時の最大の障害となっており、これらに対応するため信用保証協会や政府系金融機関等との連携を強化し、協調融資等に積極的に取り組んでいます。
(2) 経営改善支援		
・経営改善先に対する課題・問題点等の提起及び経営改善の必要性についての共通認識	・業況悪化先や経営改善を要する先および今後経営悪化が予想される先について、早期改善に着手するとともに経営者との間で課題・問題点についての共通認識を持つための定期的ヒアリングとモニタリングの実施 ・「川上・川下ビジネスネットワーク事業」に参画、「ビジネスマッチングフェア」の案内等を通じ、取引先の販路開拓等幅広い支援の実施 ・「知的資産経営セミナー」の開催、「知的資産経営報告書」作成支援	経営改善先として ・要注意・要管理先でさらなる経営悪化を防ぐ先 ・正常先であるが、今後業況不振で経営悪化が予想される先 ・その他業況等のモニタリングが必要な先等から159先(うち事業再生6先)を選定し、経営改善支援に取り組み、四半期ごとのモニタリングを実施し、改善状況の把握を行っています。 健全化支援として ・早期発見、早期治療が最も重要であり、融資先表債20百万円以上の先に対する四半期ごとのモニタリングを実施しています。 ・改善支援にあたっては、(公財)ひょうご産業活性化センター、顧問税理士等外部の支援機関をも活用しています。 一般社団法人 兵庫県信用金庫協会、公益財団法人 神戸市産業振興財団、神戸商工会議所が主催する「川上・川下ビジネスネットワーク事業」に参画し、取引先の販路開拓・「ビジネスマッチング」に活用しています。 ・(公財)ひょうご産業活性化センターと共同で取引先事業所ならびに職員向けに、「知的資産経営支援セミナー」を開催し、「知的資産経営報告書」の作成を希望される事業所については、外部講師を招聘し金庫職員とともに作成支援を行いました。 ・「知的資産経営支援セミナー」 平成24年 7月開催 取引先: 74社 96名 他2行政機関 5名 サマリー版作成事業所 18社 ・平成24年11月東京 ニッショーホールで、(独立行政法人)中小企業基盤整備機構の主催、経済産業省、金融庁の後援による「中小企業のための知的資産経営フォーラム2012」が開催され、当金庫は、「経営の『見える化』で新しい『扉』を拓く」のパネルディスカッションにパネリストとして参加しました。

項目	取組み内容	実績・当金庫にとっての成果
	・「ビジネスマッチングフェアin加古川」に出展 ・「全国フォーラム in 東京」にパネリストとして参加	・平成24年10月 加古川市・兵庫県東播磨県民局・加古川商工会議所主催で「第3回 東播磨 ビジネスマッチングフェアin加古川」に後援団体・地元金融機関として出展しました。 ・地域間連携のイノベーションが企業の成長・発展を加速させる効果的な手段として、(一般財団法人)日本立地センターと全国イノベーション推進機関ネットワークが平成25年3月に東京・日暮里サニーホールで「全国フォーラム in 東京 地域間連携事業成果報告 地域間の連携を活かそうー地域間連携事業の成果とその活用方策のパネルディスカッション」に地域金融機関連携支援モデル金融機関として当金庫は、呉信用金庫と共にパネリストとして参加しました。
(3) 事業再生支援		
・中小企業再生支援協議会等の積極的活用と再生計画のモニタリング	・再生支援協議会等の外部機関の積極的な活用により、対象先の事業再生を効果的に推進するとともに、経営改善全般におけるノウハウを吸収し、当金庫の経営改善支援活動のレベルアップを図る。	・事業再生支援対象先として6先を選定(うち4先は再生支援協議会にて再生計画策定)し、再生に取り組んでいます。 ・事業再生支援先においては、再生計画に沿って取り組んだ結果、社内の意識改革が図れ、生産性向上や経費削減等の成果があり、事業再生が進みつつあります。 ・再生支援協議会による事業再生先には5先取り組み、そのうち平成18年より再生に取り組んだ1先は、每期着実に利益を計上し借入返済を進めた結果、22年度に破綻懸念先から要注意先にランクアップしました。1先は、社内組織の整備等再生計画の見直しを行い、引き続き取り組み中です。23年度と24年度に再生支援協議会にて再生計画が策定された3先については、再生状況をモニタリングしていきます。
・多重債務者への対応	・多重債務者への対応については、あらゆる相談に応じることが地域金融機関の使命と位置付け取り組んでいます。 ・多重債務者への対応については、あらゆる相談に応じる“よろず相談信用金庫”としての位置づけで行っており、通常の融資審査対象外のものについても、経営相談部個人支援課が営業店をサポートし、事案によっては、直接顧客ヒアリングの実施	・多重債務者からの金融相談に対し適切なアドバイスを行える体制を整備し取り組んだ結果、借入負担の軽減等生活再生に一定の成果がありました。 ・債務の一本化による負担軽減や家族等の理解と協力を得ながら、取組事案の大部分が債務も順調に減少し生活再生に向かっていきます。 ・「生活再生ローン」の24年度取組実績 1件 13百万円 25年3月末残高 36件 146百万円 (総実行額 66件 335百万円)
(4) 事業継承		
・取引先経営者の高齢化等に伴う事業承継	・「知的資産経営セミナー」の開催、「知的資産経営報告書」作成支援	・(公財)ひょうご産業活性化センターと共同で取引先事業所ならびに職員向けに、「知的資産経営支援セミナー」を開催し、「知的資産経営報告書」の作成を希望される事業所については、外部講師を招聘し金庫職員とともに作成支援を行いました。 「知的資産経営支援セミナー」参加事業所 平成24年7月開催 取引先: 74社 96名 他2行政機関 5名 うちサマリー版作成事業所 18社 ・円滑な事業承継を行うためには、法律面・金融面のみならず、創業者から後継者へのパトタッチの時期や財産の承継だけでなく、目に見えない強み(知的資産)の承継が重要であり、培ってきたさまざまな財産を引き継ぐ重要性をセミナーや報告書作成により認識いただいています。 ・事業承継実績: 35先

【 2. コンサルティング機能発揮への強化 】

項目	取組み内容	実績 ・ 当金庫にとっての成果
(1) 不動産担保・個人保証に過度に依存しない融資等への取組み		
・政府系金融機関・信用保証協会との連携強化による協調融資	・政府系金融機関との協調により双方の強みを生かした連携強化への取組み 政府系金融機関との協調融資 目標件数 15件 信用保証協会保証付融資 実行目標 件数 金額 1,000件 8,000百万円	政府系金融機関との協調融資 実績件数 4件 信用保証協会保証付融資 実行件数 682件 金額 5,076百万円
・スコアリングモデル・格付による事業性融資	・担保・保証に過度に依存しない融資への取組み スコアリングモデル・格付良好先に対する事業性融資商品の推進 実行目標 件数 金額 50件 50百万円	スコアリングモデル・格付良好先に対する事業性融資 実行件数 金額 18件 22百万円
(2) 企業の将来性、技術力を的確に評価できる能力等、人材育成への取組み		
・現場力向上に向けた人材育成	・企業の成長性を見極め能力の向上 ・技術力を的確に評価できる目利き能力の向上 ・定性的な非財務情報の的確な評価を行うための能力の向上	営業店における渉外担当の「目利き能力」の向上を図るべく、内部研修と外部研修への参加を実施しました。 《内部研修実施》 ・定性的な非財務情報の的確な評価、目利き力向上を図るため、支店長 事業所担当・渉外チーフ 渉外ベテラン 対象(各階層別)に、外部講師を招聘して「課題解決型融資推進研修会」を昨年度に引き続き開催しました。 ・医療・介護事業を理解し、同分野の目利き力向上を目的とした「医療・介護事業関連研修会」を平成24年度第4四半期に開催しました。 《外部研修派遣》 ・「目利き力養成・企業再生支援講座」(全信協主催)に派遣 ・「コンサルティング機能研修会」(近信協主催)に派遣 ・「企業コンサルティング能力養成講座」(近信協主催)に派遣 ・「融資渉外(法人・事業先)研修会」(近信協主催)に派遣 ・「融資渉外能力講座」(兵信協主催)に派遣 ・「中小企業のためのM&A」(近信協主催)に派遣 ・「法人新規開拓スキルアップ研修会」(近信協主催)に派遣 ・「新任医療担当者養成講座」(日本経営主催)に派遣 ・「病院経営支援のポイント」(きんざい主催)に派遣 ・「医療・介護業界の最新動向と取引推進策」(経済法令研究会主催)に派遣

【 3. 地域の面的再生への積極的な参画】

項目	取組み内容	実績・当金庫にとっての成果
(1) 地域全体の活性化、持続的な成長を視野に入れた、同時的・一体的な「面」的再生への取組み		
・行政依存の体質からの脱却「生野ひいきの会」等の活動	・地域の魅力を発信し価値を再認識するため、市民・各種団体・企業・行政などが一体となった取組み	・平成19年12月、「住民の自主的なまちづくり」の組織立ち上げに金庫経営陣が参画して「生野 ひいきの会」を創設し、現在では活動基盤もできており、「自分達の町は自分達で守り、後世に引き継ぐ」ことを基本として活動しています。 ・支援資金は、地元や生野に関係する個人・企業・団体からの寄付金で賄い、地元の有識者で構成する審査会を得て各種イベント等に支援します。 ・会員数および支援事業件数 (25年3月末現在) ・会員数 個人会員 642名 ・支援事業 件数 48件 法人会員 44社 支援総額 3, 103千円 寄付総額 5, 363千円(内特別寄付金 6件) ・年間48件の催事・イベントが支援事業として承認され、総額310万円の支援を行い、催事・イベントのなかには、年々規模が拡大しているもあり、また、当地への来訪者も年々増加しています。 ・2012年4月、日本ユネスコ協会連盟に「銀の馬車道」が「プロジェクト未来遺産」に登録されました。銀の馬車道ガイド交流会では、「ガイドとめぐる 銀の馬車道」のパンフレット10万部作成し、楽しく、分かりやすく解説されており、世界遺産の国宝「姫路城」を有する姫路から「銀の馬車道」を経由し、神子畑、明延鉱山を結ぶ「鉱石の道」を産業遺産ツーリズムとして活用することにより、「面」の広域観光資源として発展することにより地域内の「資金の還流」が期待されています。 ・「銀に馬車道」を図案にした定期預金証書は、平成21年11月から取り扱い、年間12, 000枚発行し、「銀の馬車道」のPR活動が図れ、営業地域の顧客から支援事業等に関心が高まっています。 ・中播磨南北交流、但馬地区交流のシンボル事業として兵庫県全域に拡がっており、当金庫理事長が各運営委員会の中心的存在であり、「公民連携」のコーディネーターの役割を担うとともに、金庫として地域社会活性化に向けた取組みを推進しています。
(2) 地域活性化につながる多様なサービスの提供		
・兵庫県立松陽高校「アントレプレナー入門」(模擬店)授業	・アントレプレナーでの銀行からの資金調達過程「借入申込～融資審査」授業への協力	・平成24年4月開講 商業科 課題研究「企業経営について実社会で学ぶ」 「松の子本舗Ⅷ」を起業 資金調達方法の実践・体験・企業経営
・少子化対策としての「子育て応援商品」の取扱い	・少子化対策の一環として優遇金利の定期預金、住宅ローンの取扱い	・少子化対策として、子供3人以上扶養される家庭を優遇金利でサポートする「子育て応援定期預金“にぎやか家族”」、「子育て応援住宅ローン“にぎやか家族”」の取扱いのPRに努めました。 ・少子化対策商品の「子育て応援住宅ローン“にぎやか家族”」 ・融資実績 実行件数 189件 実行金額 30億 43百万円 融資残高 1, 012件 148億 21百万円 (平成25年3月末現在) ・定期預金実績 口座数 1, 597 口 残高 12億95百万円 (平成25年3月末現在)
・若手音楽家育成セミナー「生野ムジカ」への開催協力	・若手音楽家育成セミナー「生野ムジカ」事務局として協力	・「生野ムジカ」のレッスンは世界的にも類を見ない内容であり、修了コンサートも盛況で、受講者からは継続的な開催を強く望む声が聞かれました。 開催期間:平成24年 8月20日～9月 1日(修了コンサート: 9月 1日 午後2時開演)

項目	取組み内容	実績・当金庫にとっての成果
・ボランティアマインドの醸成	・NPO法人「但陽ボランティアセンター」に職員を派遣	・24年度のNPO法人「但陽ボランティアセンター」への職員派遣は、延べ1,345名となり、身体障がい者のための「移送サービス」等の活動に参加し、ボランティアマインドの醸成に大きく貢献できました。この「移送サービス」の利用者は、年々増加しており、外出手段として活用いただいております、今後も継続的に職員の派遣を行っていきます。
・独居・高齢者宅のケア訪問	・営業地域内で独居または高齢者宅へのケアのための定期訪問の実施	・渉外担当者による営業地域内の独居・高齢者宅約2,300先を対象にケア訪問を実施、『困ったときの相談がしやすいので安心』との声をいただいております、今後もこの活動を継続していきます。
・「普通救命講習Ⅰ」の開催	・当金庫職員の応急手当普及員による普通救命講習を開催	・24年度173名の職員が受講し、25年3月末現在619名の職員が修了しました。修了者についても、いざというときに救命に必要な行動が取れるよう定期的な受講を勧奨します。
・献血サポーター	・当金庫管理職会、職員組合共催による年2回の献血活動の実施 ・日本赤十字社が推進する「献血サポーター」に登録	・日本赤十字社が推進する「献血サポーター」に登録し、当金庫の管理職会、職員組合共催による献血キャンペーンを2回実施しました。平成7年から夏季および冬季の輸血用血液の不足する時期に継続して開催しており、日本赤十字社を通じて血液を必要とする方に貢献するだけでなく、職員の健康管理にも役立っています。 24年度　・夏季の献血協力者　234名 ・冬季の献血協力者　163名
・認知症サポーター	・全役職員を対象に「認知症サポーター養成講座」を開催	・平成22年6月以降、店内で困っている高齢者に適切な対応を図ることを目的に、全職員を対象に「認知症サポーター養成講座」を開催しており、現在660名(受講者累計755名)の役職員が受講しました。認知症を正しく理解し、役職員が高齢者に対し適切かつ親切な対応をとるために必要と考えられ、金庫内での統一した認識を有するという点で大きな効果がありました。

【 4. 地域や利用者に対する積極的な情報発信】

項目	取組み内容	実績・当金庫にとっての成果
・施策の進捗状況の公表	・コンサルティング機能の発揮や地域の面的再生への取組みについての成果等をホームページやディスクロージャー誌や見やすい一覧形式で公表	・平成23年の「地域密着型金融の取組み状況」を6月にホームページ、7月にディスクロージャー誌でより見やすい形式で公表しました。 ・平成24年の取組み状況は、平成25年6月にホームページ、7月にはディスクロージャー誌で分かりやすい形式による公表に努めます。

経営改善支援等の取組み実績

【24年4月～25年3月】

(単: %)

(単位先数)

		期初 債務者数	うち 経営改善 支援取組 み先数	α のうち期 末に債務者 区分がランク アップした先 数	α のうち期 末に債務者 区分が変化 しなかった先 数	α のうち再生 計画を策定 した先数	経営改善 支援取組 み率	ランクアップ率	再生計画 策定率
		A	α	β	γ	δ	α / A	β / α	δ / α
正常先 ①		5,171 先	12 先		8 先	12 先	0.2%		100.0%
要注意先	うちその他 要注意先 ②	899先	119 先	8 先	101 先	119 先	13.2%	6.7%	100.0%
	うち 要管理先 ③	33先	2 先	1 先	1 先	2 先	6.1%	50.0%	100.0%
破綻懸念先 ④		125先	25 先	5 先	18 先	25 先	20.0%	20.0%	100.0%
実質破綻先 ⑤		115 先	1 先	1 先	—	1 先	0.9%	100.0%	100.0%
破綻先 ⑥		23先	—	—	—	—	0.0%	—	—
小 計 (②～⑥の計)		1,195 先	147 先	15 先	120 先	147 先	12.3%	10.2%	100.0%
合 計		6,366 先	159 先	15 先	128 先	159 先	2.5%	9.4%	100.0%

- (注) ・期初債務者数及び債務者区分は24年4月当初時点です。
 ・債務者数、経営改善支援取組み先は、取引先企業(個人事業主を含む。)であり、個人ローン、住宅ローンのみの先を含みません。
 ・ β には、当期末の債務者区分が期初よりランクアップした先数を記載しています。
 なお、経営改善支援取組み先で期中に完済した債務者は α に含めるものの β に含めていません。
 ・期初の債務者区分が「うち要管理先」であった先が期末に債務者区分が「うちその他要注意先」にランクアップした場合は β に含めています。
 ・期初に存在した債務者で期中に新たに「経営改善支援取組み先」に選定した債務者については(仮に選定時の債務者区分が期初の債務者区分と異なっていたとしても)期初の債務者区分に従って整理しています。
 ・期中に新たに取引を開始した取引先については本表に含めていません。
 ・ γ には、期末の債務者区分が期初と変化しなかった先数を記載しています。
 ・みなし正常先については正常先の債務者数に計上しています。
 ・「再生計画を策定した先数 δ 」＝「中小企業再生支援協議会の再生計画策定先」＋「RCCの支援決定先」＋「金融機関独自の再生計画策定先」

平成24年度数値目標の達成状況

項 目		計 画	実 績
「企業概要カード」の整備先数		2, 600先	2, 672先
「ひょうご中小企業技術・経営力評価制度」の評価取得		5社	3社
政府系金融機関との協調融資		15件	4件
創業・新事業資金		30件	33件
うち「創業支援特別融資」		10件	2件
経営改善計画対象先数		153先	159先
債務者区分ランクアップ		10先	15先
スコアリングモデルを活用した無担保ローン	件数	50件	18件
	金額	50百万円	22百万円
売掛債権担保融資(ABL)		15件	7件
販路開拓事業(マッチング事業)シーズ調査希望先		20先	20先